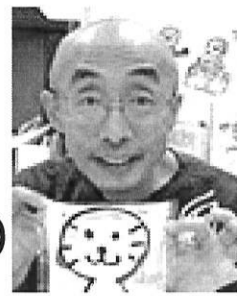


# 大障教ニュース

大阪府立障害児  
学校教職員組合  
大阪市天王寺区  
東高津町7-11  
府教育会館704号  
(TEL) 6765-8904  
(FAX) 6765-8905



## 出会はタカラモノ 佐藤比呂二さん 障害児教育の魅力語る

4月17日、大障教主催の新転任歓迎教研PART1が大  
阪府教育会館を会場に開催され、佐藤比呂二さん(都立特別  
支援学校教諭)が、「出会いはタカラモノ」子どもから教え  
られたことばかり」と題して講演しました。自閉症児をは  
ぐくんだ佐藤さんの話は笑いあり涙あり。会場とオンライン  
の参加者は話にひきこまれ、90分間の講演はあつという間  
でした。

### 「心」を話す

佐藤さんは、自閉症児のシュン  
君との出会いから語り始めまし  
た。シュン君は強い「こだわり」を  
持っていました。学校に着てくる  
服は2着、きつい偏食があり、学  
校行事の前は特に不安定になりま  
す。中学部3年の運動会の徒競  
走。佐藤さんは、参加することを



オンライン参加と合わせ、会場  
にも少人数で集まりました。

拒むシュン君をあの手この手  
で促しますが、うまくいきま  
せん。  
徒競走が終了してしまつた  
その後、佐藤さんにとつて意  
外なことが起きました。シュ  
ン君は泣き出し、大パニック  
になったのです。このシュン  
君の姿に触れて、佐藤さんは  
あることに気づきます。「そう  
か。参加したくなかつたので  
はない。参加したいのにでき  
なかつたのだ」とシュン君の  
真実を知つたと語ります。  
『イヤの中にある本当は『や  
りたい』という願いに気付く  
ことです。目に見える子ども  
の言動に惑わされず、『心の  
声』と会話しよう』と佐藤さん  
は語りました。

### 「子どもの心に何が残ったか」を問う

続いて大吉君のことに話を  
すすめました。大吉君は施設  
入所の生徒で激しい自傷行為  
を持っていました。場面転換  
への強い不安のため、やりた  
くても「やらない」、行きた  
くても「行かない」とすべてを拒  
否する子どもでした。

大吉君と出会つて2カ月が  
たち、校外学習で「子どもの  
国」に行つた時のこと。大吉君  
はゴーカートに乗ることを楽  
しみにしていました。しかし、  
ゴーカートを目前にして「乗

### 葛藤を自分でのりこえる

ある日、大吉君が突然パ  
ニックになりました。違うグ  
ループの生徒たちが伊丹先生  
と買い物に行くのを見て、自  
分も行きたくなつたのです。  
この日の大吉君は買い物に行  
く予定はなかつたので、佐藤  
先生は大吉君の要求を受け入  
れませんでした。「楽しいおや  
つ作りをしよう」と代わりの  
活動を示して、大吉君が折り

### 人間形成を大切にしたい教育を

「子どもは人のかかわりを  
通して、自分の意志で『よりよ  
い自分』を選びながら変わっ  
ていきます。『子どもを変え  
る』ではなく、『子どもが変わ  
る』という視点で人間形成を

らない。佐藤さんは、このままでは「乗れな  
かつたダメな自分」という記憶だけが残つてし  
まうのではないかと思ひました。佐藤さんは覚  
悟を決めて、次々と言葉をかけつつけながら  
ゴーカートへ。そのままスタート。乗車中の大  
吉君は自分の手でハンドルを操作し、乗り終  
わつた後はうれしそうに笑っていました。  
佐藤さんは、「教師の自己満足と思われるか  
もしれません」と言いながら、「大切なことは、  
『できた・できない』ではなくて、やり終えて  
子どもの心に何が残つたかということ。こ  
の時は大吉君の満足そうな顔を見て、あらため  
て乗ることができて良かったと心から思いまし  
た」と語りました。

合えるまで付き合おうと思ひました。  
この時、佐藤さんの頭にふとある考えが  
浮かびました。「願いがあるならば、葛藤を  
作つてみよう」。佐藤さんは、「佐藤先生と  
は行けないけれど、伊丹先生となら行つて  
もいいよ」と大吉君に提案しました。大吉  
君はじつと考え始めました。そして3分  
がたち、大吉君は「そうする」と答えを出  
したので。佐藤先生は、「葛藤に直面し、  
それを自分で乗り越えていく中で大吉君は  
成長する」と確信しました。

大切にしたい」と佐藤さん。「大吉君は、『支  
えられる存在』から『みずから支える存在』  
へと自分の力で変わつていきました」と語  
り、講演を結びました。  
(裏面に参加者の感想を掲載しています。)



学校文化で、五月と言えは「こいのぼり」の  
つどい「家庭訪問」だろう。十数年前は、担  
任全員で家庭訪問を実施していた。家庭環境  
を知ることが指導の手立てになるからだ。し  
かし、維新府政による教職員旅費の大幅削減  
で「出張が困難になり、新入生以外の家庭訪  
問は、学校文化から姿を消しつつある。  
ここで、一九七〇年代に発行された「京都  
教育」に掲載された児童の詩を紹介する。

先生、いいこと言つてや  
先生、いいこと言つてや  
島田 雅喜  
そうでないとおこるぞ。  
とつても おとなしく  
ちゃんとしてるつて 言つてや。  
国語も  
算数も  
図工も  
社会も  
なんでも ちゃんとしている かしこい子  
ですつて 言つてや。  
家でまってるぞ

私も小学生のころ、先生が来るのをソワソ  
ワしながら待つていた。狭小な団地住まい  
だったが、「先生が家に来る」ことがうれし  
かつた。コロナの感染拡大で、新入生の家庭訪  
問も「自粛」で残念である。  
緊急事態宣言が報道される中、生徒は「ま  
た、学校休みになるのかな」と心配している。  
やわらかな自我を持つ子どもたち。家庭訪  
問で子どもを励ますことはできないが、その  
方法はたくさんある。  
(久)

# 劣悪な教育条件の整備を求めて対府交渉

## 支援学校建設による「過大・過密」の抜本的解消を！

### 大阪の障害児教育をよくする会

3月19日、コロナ禍のもとで日程調整を繰り返して、参加規模の縮小や交渉時間の短縮など、感染対策を講じながら大阪の障害児教育をよくする会の対府交渉が大阪市内で実施されました。交渉には代表5人が参加し、障害児教育の条件整備を求める切実な要求を訴えました。

#### 「過大・過密」解消のため、

#### 府内各地域での知的障害支援学校建設を

2020年10月に新たに作成された「知的障がいのある児童生徒等の教育環境に関する基本方針」において、2017年3月の前回推計(1400人増加)を上回る1590人増加する再推計に見合った新校整備計画が具体的に示されていない問題を各地域の実態を訴えるなかで指摘し、基本方針の抜本的見直しとともに府内各地域への知的障害支援学校建設を求めました。

北摂地域の保護者は、広範な通学区域と児童生徒数増に伴い、バ



要望書を手交する  
よくする会会長の伊庭さん

スコースによつては年々ス

必要性を訴えました。

クルバスの乗車時間が増える実態を示し、コロナ禍における「密なスクールバスでの通学の不安を訴えるとともに、家庭から60分以内の通学時間となるよう地域に根ざした支援学校の建設を求めました。

重ねて、堺地域の保護者からは、西浦支援学校の開校時における校区割によつて、堺市在住の生徒が自主通学することができなくなった実態を示し、通学区域割については当事者・保護者・地域の意見を十分に聞くことを求めました。

北河内地域の保護者は、2020年4月から強行された「新たな通学区域割の変更」により、枚方市東部地域の生徒が生活圏・福祉圏域の異なる交野支援四條畷校に通わされる問題点を示し、地域に根ざした支援学校の建設を訴えま

府教委は、「府内どの地域も決してゆとりのある状況ではない」「知的障がいのある児童生徒の増加への対応については、『知的障がいのある児童生徒等の教育環境に関する基本方針』を策定し、もと西淀川高校を活用した新校整備をす

した。また、八尾支援の保護者からは、「新たな通学区域割の変更」により、東大阪市在住の子どもたちが高等部段階で3地域に振り分けられることによつて生じている子どもと保護者が抱える不安や混乱の実態を示し、支援学校における小中高一貫教育の重要性と東大阪市内への支援学校整備の

進めていきたい」などと述べましたが、さらなる新校開校の時期や地域などの見直しについて今は示せる段階にないとの回答にとどまりました。

#### 参加者の感想 (表面より続き)

- ありのままの姿を受け止めることで、その子が何を求め、どのような支援をすればいいのか見えてくるような気がします。
- 新卒で社会人としてのスタートを特別支援学校の先生になってきました。子どもとの関わりは現場の先生方を見て真似するのに精いっぱいになっていたのですが、今回の講演で考えてみるきっかけになりました。
- 子どもとの関わり方見方など不安になりながら接しています。子どもの力を信じて関わりたいと思えました。
- 人間形成を大切にしたい。
- 院内の学校で2年目となりますが、子どもたちとの出会いを宝物に感じながら、がんばっていきたくと思います。
- うなずき、心に染み、今まで関わってきた子どもたちの顔が浮かんで来て、また色々なことに取り組んでいきたくと思わせてもらえました。
- 先生のお話の中で、「不安が強い⇒安心できる場を探している」のが、今、担任している児童への対応の中ですごく腑に落ちる言葉でした。

#### 四條畷校の独立校化

北河内地域の保護者は、「四條畷校は、スプリングラーのない中学部・高等部のみで、校である。小学部棟を建てて、小中高一貫の独立校にしてほしい」と訴え、府内600人程

度に対応する新校とは別に小中学部・高等部をそなえた四條畷校の本校化を求めました。

#### もと西淀川高等学校校舎を活用した

#### 新校整備における小学部棟新設を

西淀川地域の関係者は、もと府立西淀川高校校舎を活用した新校整備については、高校校舎における段差の高い階段の昇降をはじめ、小学部の児童の実態に応じた施設設備の必要性を訴え、小学部棟新設を求めました。また、開校スケジュールが1年延期となつたことによる地域の保護者や住民の不安を訴え、地域説明

会を開いて、計画や進捗状況を丁寧に説明するよう求めました。府教委は、「現段階では、小学部棟の新設ではなく、既存校舎全体を活用し、可能な限り1階での小学部児童の学習環境を確保するとともに、小学部児童向けのトイレ等の整備や子どもたちの影響が最小限になるようユニバーサルデザインの徹底を図っていきたくと考えている」「通学区域に関する説明会は必ずおこない、ご意見は受けとめたい」と回答しました。

交渉の最後にあいさつした「よくする会」の伊庭会長は「府内各地域における新校建設と西淀川の新校整備を早急にすすめてほしい」としめくり、交渉を終えました。

交渉の最後にあいさつした「よくする会」の伊庭会長は「府内各地域における新校建設と西淀川の新校整備を早急にすすめてほしい」としめくり、交渉を終えました。